

永小作権ニ関スル請願参考書

(発行年 / Year)

1910

永作上國石諸欽卷卷書

永小作ニ關スル請願參考書

一 兵庫縣川邊郡尾ヶ崎近附數百町あり且ル新
田永小作權ニ關シ請願スル處アラントシ該
新田、起原沿革及ヒ權利關係ノ概略ハ別紙
請願書ニ記載セシモ猶該永小作權ノ普通永
小作地ニ異ル性質ヲ有スル事實ヲ証明セシ
為メ多數關係書類ノ中其幾部ヲ左ニ掲載シ
一々之ニ説明ヲ附シ閲覧ノ便ニ供セリ
一 左ニ掲載セル第一部乃至第七部ノ書類ハ何
モ(畑砵)又ハ(上砵)賣買ノ証書ニシテ小作人ハ
畑砵ノ所有權ヲ有スル事、地床主ハ其所有
權ヲ認メテ之ニ奥印ヲ爲シタル事、所轄戸長
ニ於テ公証ヲ爲シタルヲ諸種ノ公課ハ作人
之ヲ支辨シ重等ノ事實ヲ証明スルモノニ
有之候

第一卷部

二十年第三部

畑砵賣渡証書

兵庫縣攝津國川邊郡大洲村ノ内

東新城屋新田字南橋詰百八番

一畑砵

(又ハ畑砵代
トモ云フ)

壹反拾四步

証書
不純

畑砵
不純

此賣渡代金九拾円也

右相砌者所有、御坐候処今般都合、ヨ
リ示談之上前顯金額ヲ以テ賣渡則代金正
ニ受取申候処確實也然レ上ニ爾後賣殿御
隨臺ニ御宛テ作可被成最借地料之儀者勾
論其他係、物等總テ賣殿ヨリ御致可被成
候為後日知、賣渡証券依テ如件
明治二十年六月廿六日

賣渡主

大江 圭一 子

依頼ニ付 代書候也

小河原貞宜 子

左郡尼ヶ崎町
生野伊助殿

法典調査會

前書之通相違無之候也

明治廿年六月廿六日

地主代

八木 新助 子

芳武部

十二年第三部

相砌代賣券証書

福永
平次

一金百八拾六圓六拾二錢七厘

右賣房砌代左、

兵庫縣攝津國川邊郡西高洲新田ノ内字七

平割

ノ割三拾五番

一畑砂代

貳反四畝歩

(本文以下証書面之文詞ハ前号ノ方ト同一ナルヲ以テ略ス)

明治十二年四月三日

第拾五區七ノ松村

橋本新右衛門

新城屋新田

竹間清七殿

前書之通畑砂代賣張相違無之候也
地主

副主長
小野部市右衛門

平野 治平

法典調査會

(第三号)

拾壹年甲第七号

上砂永譲渡証

平割

此庫跡下攝津國川辺郡第九區賣濱新田地
所ノ内有之

一畑上砂反割 三町七反畝畝拾三歩

証書
平畑

同新田壹番ヨリ六番迄

証書
平畑

字東井路イノ割悉皆反別貳町八畝
拾三歩

同東井路口ノ割悉皆反別壹町六反

九畝步

及別合計三畝八反五畝廿步

但壹反、付金貳拾叁兩宛。

代價金計金八百八拾七兩貳錢三厘

兵庫縣下第玖區別新村

議渡主

明治十一年八月十四日

高橋長四郎 印

寺本善造 殿

外五名宛

前書上畝代取引致承諾候也

東濱新田地主村上興二郎代理

赤村結七 印

前書之通相違無之候也

法典調查會

戸長

伊達 尊親 印

副戸長

平野 流平 印

(第四号)

第三拾貳号

畑賣券証文之事

証書
在畑

初島新田ノ内字カノ割廿三番地

一畑 畑 八畝八步

全新田ノ内字トノ割五拾七番ノ内

一畑 畑 六畝廿二步

全割

又壹及五畝步

此地價金九拾五兩八拾壹錢四厘
明治八年十一月七日

築地所賣主

西山 卯平 ㊦

初島新田

致野 彦年 殿

前書之通相賣券相違無之候也

右割戸長

平野 次平 ㊦

(第五号)

相賣券証文之事

法典調查會

初島新田、内字原、割格七番
一畝破 五畝步

初島

此代價貳拾貳圓也

明治八年十月十四日

全所賣主

本林 常治郎 ㊦

初島新田

門脇儀左衛門 殿

前書之通相賣券証文相違無之候也

右割戸長

平野 治平 ㊦

(第六号)

明治四年甲寅拾六郎

相砂代賣渡証文

兵庫縣下攝津國川辺郡大洲村、内
字新城屋四方并路六拾八番地
一相砂
壹反貳畝拾七步

証書
印

以賣渡代金百拾五兩也

明治拾三年十二月卅日

大洲村字新城屋

賣渡主

八木佐七 (印)

樽谷清九郎殿

法典調査會

前書之通相砂代賣渡相違無之候也

明治十四年二月十八日

戸長

津久井敏正 (印)

地主代

八木新助 (印)

(第七号)

明治四年甲寅十七郎

相砂代賣渡証文

兵庫縣下攝津國川辺郡大洲村、内
字新城屋字東松高洲貳百四拾六番地
一相砂代
九畝八步

印

合所字左

或石之數貳番地

一相砌代

壹及九畝亦壹步

合及別貳及八畝亦九步

此賣渡代金貳百六拾五圓也

註看
印

明治十三年十二月卅日

大洲村新地屋

賣渡主

八木藤治郎 印

字平在安所

樽谷清九郎 殿

前書之相砌代賣渡相違無之候也

法典編查會

明治十四年二月十八日

産長

津久井敏正 印

地主代

八木新助 印

一左に掲載せん証書に相砌所有者力或一定

ノ期限ヲ以テ普通作人ノ轉貸スル場合ニ

於ケル契約ノ一例ヲ示シタルモノニシテ

上砌所有者ハ普通田地ノ所有權者トシテ

ノ權利ヲ有スルコトヲ証明スルモノニ有之

候

(第八号)

証旁
不誤

如砥石作確証

攝津國川辺郡大洲村之内字東濱新田也八
番割

一知止砥代

及別或又四畝步

此作德金貳拾四匁

但し壹匁、付控内ノ新

右之細砥代其詳疑御所有物之所今般和對
示談ノ上明治十七年舊正月ヨリ今年十
月卅日迄致書ヲ作仕候所確矣明略也最御
細疑御勤メ欲下作德金前様之通相掛メ最
極付物不作ニ不拍本年八月十日限リ無相
違御渡シ可申候若違滞候ハ、該細植付、

法典編纂會

供御引揚ニ相成候共一言ノ申方ナク而亦
御入用之節ハ年限中候共蘇州總代御價被
下候ハ、何時エラモ無故障差矣申候諸
役水掛リ著ハ一切此方ヨリ相勤可申候決
シテ御損害相掛申向敷ハ為後日細小作証
券仍而如件

明治十七年舊一月

攝津國川辺郡尾ヶ崎

小作人

金倉藤吉衛

(印)

右本人自然小作中差支出束候節ハ諸
判之者引受決シテ御速窓相掛申向敷
候也

全國全郡大測村

諸人

八木佐七 ⑨

松葉傳六 ⑩

一左記ノ書類ハ昔藩廳ニ於テ新田ノ地盤ヲ
作り之ヲ町民ニ貸下ケタリ然レモ、内松
名ノ引受人解、町役人等々其監督ヲ命ジ
タル方法契約書ニシテ新田ノ起原ヲ記
スルモノ有之候

(第九節)

覽

一^{新田}新田地面墨引差出次芳表碁可相渡事
一同所人別之儀ハ別殿相立候事急々難申

法典編會

付候建家出来作人等差置候節ニ至リ候
ハ、松人、者ヨリ人極見立右之内ニテ
支配人差置候儀勝手次第候願節之儀ハ
松人、办ニテ月番欲年番ニテ申出可然
事

一惣町役人并松人、者ヨリ相互ニ為取替
一孔之儀先達而申付候通急々為取替
可申事

一毎年小物取上納之儀並ニ相極候通永々
石、付六拾匁道段ヲ以テ上納可仕
事

一惣町工相渡候新地徳用十分一ノ儀先達
而之通り惣町一統、引受人等々ハ徳用

之十分一可請取事、候得共惣所引諸難
遊之趣、追々申出候前後不行居義共、付
御引上可被御付之所、情惣引以テ惣所
手、不被難捨人之者、共引請取斗可申事、
儀、付萬端捨人、者引請取斗可申事、
便依之惣所工相渡、候處、小物成上納
之高、以テ十分一石、付方捨外直段、
以テ相渡可申事、最一礼、書入候事、勝手
以テ事

一 小物成場、付請取免許之儀、金一礼、
書入候事、勝手以テ事

一 去々卯年、日、未戌年迄八ヶ年、小物成上
納、市用捨、付在年限、出精皆成、就可

法典綱要會

仕候爲一、開城有之候ハ、且節、可申出候
吟味、上可相極事

一 新家地子之儀、字入之上地、子高入、相成
節中、在氣地類之儀、候間一、反、付未毫
石、或斗地子、未上、所可仕事、最建家地子、
相成候方、成場、内可減事

右三通新地引諸人、中渡候間、其旨相心得
急々爲取替可相流候

辰十一月

即代

惣所

名主

組頭
惣代

右被仰渡書之義、看明在惣代惣所組頭
、内三人并二新開引替所人、内三人所合
所、御百被成被仰付双方同意承知奉畏依
之而新開引替所中所有正也然以上、右被仰
渡候御簡條之趣相守到強々年双方違氣申
間敷候為強証為取替連判証文仍下如件

惣所 組頭連印

右之通為取替一札之趣相違無之候為強
日奥書印形依下如件

惣所

在 主

法典編纂會

惣代

取人宛

一 左記指部乃至拾貳部証、年貢米、取捨若
く、藩廳用金(徵稅)、徵集等何レモ有性宛
則々請願人共、祖先、直接承承シ又ニ重
実ヲ証明仕候

(算拾部)

鹿ヶ崎領辰歲免宛

天保九戌改

一 高貳拾四石七斗貳升六合 東濱新田

取米或石四斗七升三合 壹取

一 高八斗八升五合 溝部新田

取米七斗壹合

八分取

取米合計貳石五斗四升四合

右之通当免相定之條年貢米極月十日以前免度皆済可仕者也

西田伴右衛門 至

山田文左衛門 至

東山源之丞 至

百姓

前書之通当立先御役人中之會見分免相
定リ申候以上

大庄屋瓦林

田本市之進 至

法典調查會

長洲

若井達次郎 至

三反田

吉井又右衛門 至

荒牧

岸添吉三郎 至

郡家

平野三郎 至

(第拾七號)

厄子 培領印成免定

天保九戌改

東濱新田

一高畝拾四石七斗貳升六合

東濃新田

無取

又度意三郎洪水堤切
潮入ニ付即當荒

溝部新田

一高八斗八升五合

溝部新田

無取

度意三郎洪水堤切
潮入ニ付即當荒

在ハ常即潮入ニ付見分之上年貢米令用檢無免
申付者也

山田幸藏 下

山下 族 下

木山涼三丞 下

前書之通御役人中三曾見分之上為街用檢

法典調查會

無免相定リ申候

以上

大庄屋瓦林

因本市之進 下

全 三反田

吉井又左衛門 下

全 長洲

若井達次郎 下

全 荒牧

岸添吉三郎 下

第拾貳節

西高洲新田

不割

高樹

一銀貳百七拾八分四分

但五ヶ年割

壹ヶ年

五拾五分六分八厘宛

一銀百八拾壹分六分

但五ヶ年割

壹ヶ年

三拾六分三分貳厘宛

支配人

藤兵衛

書面之通御用銀當丑ヨリ未迄五ヶ年割納申付候以上

丑六月

役所 恕百性

法典調査會

一左之書類ハ該新田ノ堤防大破ノ際所屬ノ村
方ニ於テ特ニ地方税ノ補助ヲ受ケタル事實
ヲ証スルモノニシテ官廳之ヲ認可シ補助ヲ
加ハタルハ他ニ類例ナリ必竟新田ノ性質彼
カ如ク地方一般人ノ利害ニ關スルヲ大十
ルヲ酌量シ特ニ村方ノ請願ヲ容レ之ヲ補助
シタルモノナリヲ証明致候

第拾三條

御証明願

別紙ニテ崎港内堤防及海岸堤防急破復舊工

費特別補助願出膳本、厄ヶ崎町役場ニ於テ
膳字シタルモノニシテ役場街保管ニ係リ
御願出副本ト相違無之旨御証明被成下度
此致相願候也

明治廿六年二月三日

厄ヶ崎町、内大洲村

松本久吉

高見喜八

今町、内厄ヶ崎

北方惣助

由良熊三助

喜渡藤藏

右代人

法典調査會

東浦義秀

厄ヶ崎町長 柳津徳太郎殿

地方統補助願

川辺郡厄ヶ崎町、内

大洲村

當村、内字新城屋東島字東高洲字大高洲三
親田、西堤防並字、新城屋西島字葭島字西
高洲字東濱、西新田東堤防ヲ以テ厄ヶ崎港
、東西兩岸ヲ為スヲ以テ常ニ船舶往來、為
メ河水波浪ヲ起シ之レカ為メ右西岸堤防破
壞甚敷候葦本年八月十六日九月十四日兩度
高潮暴風ノ為メ港内堤防ヲ衝キ大破仕候ニ
就テハ之レカ堤防ヲ修築シテ厚形ニ復スレ

ハ實ニ容(湯ノ輩)ニ非ス。庶和費ヲ以テ築造
出難リ。乍此供ニシテ打捨置候テハ終ニ
ハ当村貳百金兩歩ノ畑地ハ水底ニ沈ム。十
シトモ保シ難リ。然ルハ國土保安上ニ因テ
仕候ト奉存候間何卒特別ノ申詮請ヲ以テ
工費ニ對シ相當ノ補助被成下度其補助以外
ノ金貨ハ大洲村ニ於テ負擔可致候哉計書ニ
係ハ別冊ニ通リ候間實地御臨檢ニ上事
情而洞察被下願竟御聽許相成度此啟奉願係
也

明治廿四年十二月五日

大洲村總代

山下義明 至

法典調查會

河合仁兵衛 至

大野文次 至

兵庫縣知事周布公平 殿

評決書

尾ヶ崎港堤通り堤防修築費

一金八十六百拾兩二拾九錢三厘

内澤

金貳千五百八拾叁圓貳拾錢八厘

但工費總額十兩一三

此賦課法左ニ

金貳百六拾七圓七拾四錢七厘

当村荒地畑及別倉計拾七町貳反六
拾七步ニ賦課シ老反ニ付金老同五拾

老錢六厘

金貳千叁百貳拾老圓四拾五錢老厘

當村地價合計四萬五千九百拾老圓八

拾錢八厘三賦課一、地價四拾圓二付貳

內取積貳錢貳厘五毛四二當ル

X

金六千貳拾七圓四拾八錢五厘

但工費總額拾分一七

地方親ヨリ支給

以上

右大洲村掃蕩會、於テ詳決仕候ニ付此般

具申仕候也

明治廿七年十二月五日

法典調查會

大洲村惣代

山下義明 系

河合仁兵衛 系

矢野文治 系

兵庫縣知事 岡本公平 叙

明治廿七年十二月朔

川邊郡尼ヶ崎町所屬

尼ヶ崎港燈臺計畫書

廿五年三月廿五日ヨリ

廿五年五月三十日迄

兵庫縣 印

工事 取印ヲ承認ス

明治廿七年七月二日

工事 監督 益子小四郎 系

全會合人 神代喜平 示
撫 查 川崎東 equal 示

中略
受領証

証書
系紙

一金貳千五百貳拾九圓六拾六錢五厘
但川邊郡尼ヶ崎町所屬大洲村、内字東高濱
新田海岸堤防急破復旧工事受買金
右正、領收候也
明治廿五年十一月 日

尼ヶ崎町、内尼ヶ崎町
受買人 社岡治郎作 示
受領証
法典調查會

証書
系紙

一金貳拾貳圓五拾錢
但川邊郡尼ヶ崎町大洲村、内字東高濱
海岸急破堤防復舊工事受買金
右正、受取申候也
明治廿五年十一月十一日
本咲利一郎代

河合仁吾衛
左 取字 尼ヶ崎町助役柳津信太郎 殿
右 檢事、個所、原在、對照、相違ナキヲ証明
ス

明治廿六年六月三日

川辺郡尾ヶ崎町長 補津儀大郎 至

一 左記之書類、底地持主ニ於テ烟草所有者ノ
權利ヲ妨ケル者メ烟草ノ名稱ニ異議ヲ唱ヘ
賣買ノ奥印ヲ拒ミタル際、作人ノ意名ヨリ地
床主ニ對シ提起シタル訴訟ノ判決書ニシテ
誤判決ノ理由ノ如ク地主ハ(烟草)又ハ(上砵)
ノ意義ヲ以テ奥印ヲ爲スノ義務アル事實ヲ
認めラレタルモノニシテ烟草所有権ノ獨立
ヲ証スルモノニ有之候

(第拾四號)

明治廿九年第百五拾四號

裁判官渡書

法典調查會

控訴人兵庫縣攝津國川辺郡

元ヶ崎中在家町

平民農業

北方 惣助

代官人全縣全國神戸區學町

貳丁目

河合正鑑

被控訴人全縣全國川辺郡

元ヶ崎中在家町

平民農業

本 堤利一郎

後見人全町平民

八木新助

右北方惣助ヨリ本頃利一郎ニ係ル畑畝印差
拒ニ事件ニ付神戶地審裁判所カ言渡タル際審
判ニ服セムニテ北方惣助ヨリ控訴ヲ爲シム
ル處被控訴人ニ於テ自カテ際審ヲ求ムル抗辯
ノ理ナキヲ覺リ本案答辯ヲ爲シタルニ依リ控
訴代官人及ヒ被控訴後見人ノ陳述ヲ聽クニ具
要領左ノ如シ

中畧

依テ控訴ヲ審判シ雙方ノ辯論ヲ聽キ既明スル
左ノ如シ本訴被控訴人カ奥印ヲ請求スル所ノ
字新城屋新田合反別四反振七畝ノ地所々ノ古
来作畝畑畝々代ト唱ヘ其畧稱區々ナリシテ
被控訴人カ當松建ニ於テ自陳スル所ナリ而シ

法典調查會

テ被控訴人ハ明治十三年十二月申巳ニ一般之
テ作畝ノ畧稱ニ改メタリト陳述スル氏甲等モ
訴訟ノ如ク明治十七年十二月申巳ニ被
控訴人トシテ向テ存シタル備地科ノ圖ヲ呈
書中畑畝所持人ト明記アリテ當時畧稱ノ錯
謬ニ成リタル証憑見ルベキナレハ本訴所爭
ノ地タル明治十七年十二月申巳ニ在籍ヲ改
メタルモトハ信認シ難シ故ニ被控訴人カ之
ヲ作畝ノ畧稱ニ改稱スルモノニアラサレハ奥
印ノ請求ニ應ジ難シトシ抗辯ハ不當ナリトス
左ノ理由ナシニ依リ判決スル左ノ如シ
控訴人請求ノ通被控訴人ハ畑畝畧稱ヲ以テ之
レカ奥印ヲ爲スベシ

訴訟入費ハ姑當終當共被控人ニシテ負擔ス可シ
明治十九年五月廿四日大阪控訴院公廷ニ於テ終
審ノ裁判言渡ル者也

大阪控訴院

評定官 本間季明

左 中尾貞晃

右 青羽安成

書記 稻波通忠

右正本ニ依リ臆字スルモノナリ

明治十九年六月四日

印

書記

稻波通忠

法典調査會

一左ノ書類ハ新田地床主ノ老人ナリ秋風治郎
作ナルモノ也明治二十四年暴風雨ノ降
堤防ノ一部破壊シタルヲ竊貨トシ畑畝ノ
全部流失セシラ自巳ノ勞力ト經費ヲ以テ厚
狀ニ回復セシモノナレハ従来、作人ハ引續
キ耕作スルノ權利ナシトノ理由ヲ掲ヘ畑畝
所有名ノ權利ヲ排斥セン爲メ無断耕作排斥
ト題シ作人ニ係リ出訴シタルニ對シ法院ハ
ラレタル判決書ニシテ其理由中ニ利明セル
如ク該新田地盤ノ所有主ト地表
(即チ畑畝)ノ所有主トハ當然分立スルモノ
ナルヲ主張スルモノニ有之候

(第十五號)

判決正本

兵庫縣川辺郡尾ヶ崎町ノ内
尾ヶ崎町二十七八番邸
平氏

原告 秋園治郎作

神戸地方裁判所々属辯護士
右訴訟代理人

櫻井一久

兵庫縣川辺郡尾ヶ崎町ノ内
尾ヶ崎二十番番番邸手氏

被告 北方惣助

以下略ス

法典調査會

右當事者間ノ明治二十六年ヲ第一七七號無断
作排斥ノ訴訟事件ニ付當地方裁判所ハ判決
スルコト左ノ如シ

主 文

原告ノ請求ハ相立タズ

但訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

中 略

理 由

依テ案スルニ證人津久井敏正ノ陳述ハ今人カ
本訴新田所左村ノ戸長トナリ前戸長ヨリ事務
ノ引續キヲ受クルニ當リ傳聞セシ所ニヨレハ
東濱新田一畠ト葭島又ハイギスヨリ成立ヤ
ハ荒地ナリシヲ地主ニ於テ堤防ヲ築キ一ノ新

田トナシ當時ノ百姓ニ於テコレが開墾ニ從事
 シ終ニ耕作ニ適スル畑地トナシタルモノナ
 ニカリ百姓ハ其勞力ノ報酬トシテ上畑所有權
 ヲ得ル未地主ノ承諾ヲ經テ自由ニコレヲ賣買
 シ得リシモノナリト言フニ在リ又証人亀井吟
 平ノ陳述ニ於ケルモ本訴新田ノ地主ハ只ニ地
 床ノミヲ所有スルモノニシテハ作人ハ其上
 畑ヲ所有シシレカ賣買ヲ爲スルモ其互歩ニ
 付凡五拾円以上ノ價格ヲ有スルモノナリト
 シテ在リ且ソ原告カ其成立ヲ認メタルハ
 第一ニ訴訟ニヨルニハ作人ニ於テ本訴新田
 ノ畑地ヲ賣買シタル事實アリ加之原告カ
 亀井吟平ニ對シ強制執行ニ當リ當該
 公吏が取調ヲナシタル乙第ニ訴訟及ヒ第
 七訴訟ニヨルニ本訴新田ノハ作契約ニ付
 テハ一定ノ期限ナク特ニ其ハ作人ハ畑所
 有人ナル名稱ヲ有スル事實アルニ依テ考
 査數スレバ本訴新田ノハ作人ハ普通通ノハ
 作人ト異リ該地ニ對シ永久ニ之レガハ作
 局ニ得ハキ一種ノ權利ヲ有スル者ナリト謂
 ハル可カラズ然リ而シテ臨訟調査員ニ河崎東
 轉稱津信太郎等ノ證言ニ依ルニ明治二十四年
 中ニ於ケル暴風雨ニ因テハ本訴ノ新田其
 堤防ノ一部破壊シ爲メニ海水浸入シ多ク
 ノ度形ヲ来シ一時耕作ニ差支タルニ過ヤスシ

テ原告カ主張ノ如ク其全部原形ヲ失レ上破ノ
全部滅亡セシモノト認メ得可カラサルニ依リ
該地ニ對シ被告等カ享有スルハ作権ハ依然存
在スルモノト斷定ス果シテ然ラハ原告カ堤防
修築ニ要セシ失費ヲ償ハシカ属メハ作料ノ増
額ヲ請求スルハ恰如本訴ノ如ク純体的ニ被告
等ノハ作権ヲ排斥セントスルハ不當ナリトス
而シテ被告林虎吉ハ辯論期日ニ缺席シタルモ
本訴ハ其權利関係カ合一ニシテ確定スルモノ
ナレハ民事訴訟法第五十條ニ依リ出席シ
タル相被告等ニ其代理ヲ委任シタルモノト
看做ス可下モノトス是レ主文ノ如ク判決スル
所以ナリ

法典編纂會

明治二十七年三月十号日

神戸地方裁判所第二部

裁判長判事 黒柳 塊 茂

判事 吉田 正 造

判事 廣瀬 吉 郎

原本ニ依リ此正本ヲ作ルモノナリ

予 神戸地方裁判所

明治二十七年三月廿八日

書記 上月 百二 系

一左記ノ判決書ハ新田地床主秋田源次郎作
外臺各カ相砂賣買ノ實事ヲ担ミ又條
件人ヨリ出訴シタル結果ニ依リ確定判
決ニメ前拾四部ト合稱地床主ハ相砂所有者

權利ヲ確認シ其賣買ノ果否ノハナニ裁
替丁ノ價行ヲ三証スルモノニ有之候
(第拾五部)

開
序判決正本

控訴人兵庫縣川辺郡尼ヶ
崎町ノ内

尼ヶ崎千七拾四番地敷民衆

村岡治郎作

右訴訟代理人辯護士

櫻井一久

控訴人兵庫縣川辺郡立花村、
由七ノ村三番地敷平民衆

橋本新左衛門

右訴訟代理人辯護士

川瀬彦輔

被控訴人兵庫縣川辺郡尼ヶ
崎町、田大州村九番地敷
平民衆

利倉伊平

右控訴代理人辯護士

横田虎彦

右當事者同明治廿八年本院民事第二部子
第廿一新烟砂代賣渡奥書調示請求ノ控訴
事件ニ付控訴人ハ明治廿八年六月廿五日午
前ノ口頭辯論期日ニ出頭セズ被控訴人ハ右
期日ニ出頭シラ欠席判決ヲ以テ控訴ヲ

棄却セウレタキ旨申立ヲ爲シヨリ依テ民事
訴訟法第四百貳拾一條ニ依リ判決スル左ノ如
シ
本控訴院ハ之ヲ裁却ス

中略

原本ニ依リ此正本ヲ作ル者也

明治廿八年七月三日

印

大坂控訴院

書記 飯田平六

判決正本

當事者前ニ同シ

法典編輯會

左當事者同ノ明治廿八年十一月一八三號及ニ第
一八九號相砌代賣渡奥書調印請求ノ控訴事件
ニ付當控訴院ハ判決スル左ノ如シ

主文

明治廿八年十一月廿五日當控訴院ニ於テ言渡シ
タル調停判決ヲ維持ス

訴訟費用控訴人負擔トス

中略

理由

控訴人共ニ乙訴訟ニ據リ本訴係當地所ノ完全
ナル所有權ヲ有シ被控訴人ハ單ニ母ヲ作人ト
ルニ過キサワヲ以テ甲第一訴訟ニ奧書調印ス
ルノ義務ナキ旨判斷ストモ甲第四訴訟乃至第

拾部証全第拾二部拾三部証全第拾五部証ハ何
レモ申第一部証ハ地所ハ同様ノ地所ニ関シ控
訴人等ハ烟砥ノ賣買又ハ書入ヲ認メ之ニ與書
調子ヲ爲シタルノミナラズ特ニ申第四部証
拾三部証ノ如キハ控訴人新左衛門ニ於テ自ラ
其烟砥ヲ賣渡シタルモノニ係ル由是觀之ハ被
控訴人主供ノ如ク本訴ノ地所ハ地表ト地盤ト
号所有主ヲ異ニシ地表ノ所有名ニ於テ烟砥ヲ
賣買書入等爲ス時ハ地盤ノ所有名ニ於テ與書
調子タルノ慣行アル事明瞭ナリ然レハ學ニ
乙号証中所有權ヲ制限シタル文言ナク又一下作
若クハ作等ノ文言アルノミヲ以テ右申部各
証ヲ打消スニ足ラサルモノトス

法典調查會

以上理由アルヲ以テ控訴人等ハ被控訴人ノ
請求ニ對ス可キ義務アルモノトス

明治廿八年十一月十一日

大阪控訴院 民事第二部

部

裁判長 判事

鶴 大一郎

判事

赤堀 泰民

判事

奥宮 孝太郎

判事

肝付 嘉休

員

判幸

大倉鈕藏 子

原本ニ依リ此正本ヲ作ルモノナリ

明

治三十八年十二月四日
大改校訂院書記

飯田平吉 子